

平成 30 年 8 月 31 日

那覇市議会議長
翁 長 俊 英 様

なはの翼 f 協働 代表
上 里 直 司

なはの翼 f 協働会派視察報告書

平成 30 年 7 月 30 日から平成 30 年 8 月 2 日まで、会派視察を実施いたしました。結果については、別紙のとおりでしたので報告します。

記

1. 視 察 期 間 平成 30 年 7 月 30 日（月）～ 8 月 2 日（木）
2. 視 察 場 所 長崎県 長崎市議会・長崎孔子廟、福岡県 FUKUOKA growth next、
新潟県 新潟市議会
3. 視 察 項 目 ●長崎市議会
 - ・景観アドバイザー制度について
取り組みの経緯、制度の概要、
制度の活用例、今後の課題と方針
 - ・フッ化物洗口の取り組みについて
取り組みの経緯、事業開始前と開始後のむし歯数等の推移、
今後の課題と方針
 - 長崎孔子廟
 - ・施設視察

 - FUKUOKA growth next
 - ・施設視察
施設の概要、サポートシステムなどの取り組み、
実績と今後の課題

 - 新潟市議会
 - ・スポ柳都にいがたプランについて
取り組みの経緯について、スポ柳都にいがたプランの概要
今後の課題と方針

4. 視察参加者 代 表 上里 直司 代表代行 坂井 浩二 副 代 表 上原 仙子

長崎県 長崎市議会 平成 30 年 7 月 30 日（月）13 時 30 分 ～ 15 時

○景観アドバイザー制度について

- ・取り組みの経緯、・制度の概要、・制度の活用例、・今後の課題と方針

1 視察内容

○取り組みの経緯

長崎市では人口減少が著しい一方、2015 年、2018 年と二つの世界遺産登録、さらにクルーズ客船の入港増加等により観光客数の増加が見られる。そこで、地域資源を活かした交流人口の拡大を目指すためのまちづくりを行政としてどう実現していけばいいのか、田上富久市長の想いの下、2013 年に景観アドバイザー制度として「景観専門監」を設置した。

○制度の概要

「景観専門監」というポジションを行政内部に設置し、景観デザインという専門的な観点から監修（アドバイス）を行う。現在は、九州大学持続可能な社会のための決断科学センター准教授：高尾忠志氏が就任。

- 〔役割〕・公共事業のデザインの指導と管理（大規模プロジェクトから小規模デザインまで）
- ・市職員の育成を行う

階級は「次長級」で、現場でプロジェクトを担当する課長以下が指導対象であり、あらゆる部局の事業が監修対象となっている。

○制度の活用例

様々なプロジェクト、事業に景観専門監が関わり、市職員、施工業者、市民との協働によって価値を高めてきた。

（例）デザイン監修：鍋冠山公園展望台

長崎市を代表する眺望スポット。長崎市の大景観に少しでも迫ることができるよう当初設計案を大幅に見直し、厳しい予算の中でも利用者の体験の質を落とさないように職員が考えて実現した。

（例）デザイン・プロセス監修：岩原川プロムナード（市民参加型プロジェクト）

河川上に戦後建てられた市場を解体し、プロムナードを整備する事業で、市民ワークショップを行いながら設計案を作成。河川がオープンになり、水と緑が楽しめるプロムナードへと変わり、長崎駅とまちなかをつなぐ軸となって歩行者数が増加、新規店舗も出店している。

○今後の課題と方針

この制度をいつまで継続できるのか、特に、現市長の肝いりで進めてきた制度であるが故に不安があるが、継続・発展させていきたい。市職員の人材育成という点で成果を上げていることから、景観専門監を必ずしも外部からの登用ではなく、横串をさせる役割、人物を中に求めることも考えていきたい。

2 考察及び議員からの意見

地域の課題を解決し、地域の価値を高める公共事業を行う。そのために、行政の縦割り組織を横断し、役職という立場の横割りをつなげ、関わった事業は最後まで！という一貫性。さらに、事業を通して市民と専門家と行政の協働を実現する中で、職員の人材育成にもつなげていく取り組みは着実に効果を上げている。景観専門監、景観アドバイザーの役割は大きい。

単に公共工事のためというだけでなく、そのことを通して役所内の人材育成とまちづくりへの広がり、本市においても学ぶところは多い。担える人材をどこに求めるのかも含めて、こういった仕組みづくりができないか、今後も調査研究を重ねていきたい。

平成 30 年 7 月 30 日（月）長崎県 長崎市議会
景観アドバイザー制度について



長崎孔子廟 平成 30 年 7 月 30 日（月）17 時 ～ 18 時 ○施設視察
1 視察内容
○施設概要 等 長崎孔子廟は、1893 年(明治 26 年)に、清国政府と在日華僑が協力して建立したもので、その後いくつかの改修を経て現在に至っている。中国山東省曲阜にある総本山なみに、建物の随所に壮麗な伝統美を凝らした、日本で唯一の本格的中国様式の霊廟。 ○視察の目的 観光視察として、どのような展示、公開をし誘客に努めているかを視察し、本市孔子廟のあり方について考察するため視察を行った。また、本市では、那覇市松山公園内の久米至聖廟で行われている儀礼が宗教的行事であるから、使用料を全額免除したことが政教分離に反し、免除は無効であるにもかかわらず徴収を怠り請求をしないことは違法であるという地裁での判決を受けて提訴している。この判決での政教分離としてみなされた「釋奠祭禮」がどのような解釈で行われているのかを確認し、本市の今後の行政運営に資するために視察を行った。
2 考 察
・孔子廟施設に、孔子座像等を安置している大成殿を始め、参拝客も訪れる寺院的施設と併設されている中国歴代博物館（日中友好と文化交流の促進をめざして 1983 年に建てられ、北京故宮博物院をはじめとする中国国内各地の博物館が所蔵する国宝級の貴重な文物が常時展示されている）で構成されている。 ・荘厳な建物に加え、中華人民共和国政府や山東省曲阜の孔子本廟の協力のもとにもたらされた七十二賢人石像などもあり、厳かな雰囲気をかもし出している。 ・中国歴代博物館の展示物は 2～3 年に入れ替えられるなど豊富にある。他の美術館などへの貸し出しも行っている。
3 議員からの意見
・長崎孔子廟は、孔子廟、資料館及びお土産品店で構成されており、観光施設としても魅力ある施設である。本市においても、管理者の意向が前提であるものの、ある程度のオープンな環境が必要ではないかと感じた。 ・裁判で宗教的儀礼と位置づけられた、那覇市孔子廟の釋奠祭禮については、説明によると、伝統的行事として行っているとのこと。行事には、長崎県知事や長崎市長といった行政の長、経済人を招いて執り行っており、観光イベントとしても PR されているなど、伝統行事として市民に幅広く認知されていることが分かった。 ・本市において、本行事をオープンな形で執り行うことによって市民から伝統的行事として認識され、イベントの一つとして位置づけられるのではないかと感じた。 ・いずれにせよ那覇市の孔子廟を管理する団体の意向が重要であり、那覇市も儀式的開催、施設の PR 等に意見交換をすべきである。

平成 30 年 7 月 30 日（月）
長崎県 長崎市
長崎孔子廟 施設視察



長崎県 長崎市議会 平成 30 年 7 月 31 日（火）10 時 ～ 11 時

○フッ化物洗口の取り組みについて

- ・取り組みの経緯、・事業開始前と開始後のむし歯数等の推移、・今後の課題と方針

1 視察内容

○取り組みの経緯

平成 22 年度に長崎県が「県歯・口腔の健康づくり推進条例」を施行し、フッ化物洗口の推進を明記した。これを受け翌年度、長崎市では同市歯科保健医療福祉推進協議会内に「学校等でのフッ化物検討部会」を設置し、協議や市民向けシンポジウムを開催。平成 24 年度には推進計画を策定、フッ化物洗口の推進を明記し、25 年度には長崎市のフッ化物洗口推進事業を開始した。

長崎県としては、平成 29 年度までに保育所、幼稚園等及び小学校でのフッ化物洗口実施率を 100%とすることを目標設定している。

○事業の概要

県の補助を受け実施。当初 2/3 補助から 1/2 へ、次年度からは 1/3 になる予定。

平成 29 年度には市立小学校 69 校中 69 校と、100%実施を達成している。

- ・薬剤及び消耗品の支給、またはその購入に対する補助金の支給
- ・保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校の保護者や職員を対象とした説明会の実施
- ・関連団体との協力による、既実施施設での円滑な洗口実施への支援

○事業開始前と開始後のむし歯数等の推移

実施期間がまだ長くないため、単純に効果を判断することはできないが、この時期にむし歯を予防することで、一生を通してむし歯になりにくい歯を育て、子どもたちの将来に亘る健康を支援することを目的にしていることから、長い期間での観察が必要。

（参考）平成 24 年度 12 歳児実施率 8.5% むし歯をもつ 12 歳児の割合 36.5%

平成 29 年度 12 歳児実施率 100.0% むし歯をもつ 12 歳児の割合 30.7%

○今後の課題と方針

保育所、幼稚園、認定こども園等では 63%、中学校ではまだ 17%の実施率なので、さらに実施拡大を図りたい。また、既実施施設ではより適切な実施支援を行いたい。そのためには、歯科医師会や教育委員会、市保育会、私立幼稚園協会等、関係機関・団体との連携が必要。

2 考察及び議員からの意見

フッ化物洗口推進を事業化するまでには、やはり反対の意見もあったが、これは現在も変わらない。反対の理由として、学校は教育の場、むし歯は個人・家庭の問題、といった声もあったとのことだが、環境がむし歯をつくる、むし歯は健康格差であるとの観点から事業を進めてきた。市長、教育長、特に市長の判断が大きいとのことであった。

個々の実施にあたっては、強制的ではなく保護者の同意を得たものであり、約 8%は「やらない」という選択をした子どももいる。

他に、長崎県佐世保市は平成 24 年度に「佐世保市歯・口腔の健康づくり推進条例」を制定し、フッ化物洗口を推進、岐阜県山県市では園児・小中学生の 100%近くが実施し、また、新潟県は昭和 45 年からフッ化物洗口を推進し、12 歳児は全国一むし歯が少ないという事例を聞いた。

九州・沖縄は全国に比べてむし歯率が高いからこそ、フッ化物洗口を進める必要があるとのことだったが、沖縄県そして本市においても同様、早急に検討し取り組むべき課題ではないだろうか。

平成 30 年 7 月 31 日（火）長崎県 長崎市議会
フッ化物洗口の取り組みについて



FUKUOKA growth next

平成 30 年 7 月 31 日（火）16 時 30 分 ～ 17 時 50 分

○施設視察

- ・施設の概要、・サポートシステムなどの取り組み、・実績と今後の課題

1 視察内容

- ・施設の概要：官民共働型 福岡市スタートアップ支援施設について

○運営者

福岡市/福岡地所（株）/さくらインターネット（株）/APAMAN（株）、
協力者：Mistletoe（株）/株式会社 ABBALab/ ブランコ株式会社/株式会社サイノウ
今回、案内、プレゼンをされた職員は福岡地所の職員とのこと。

○場所

旧大名小学校 明治 6 年に開校し、市内でも最古の小学校だった大名小学校。鉄筋コンクリート製の現校舎は昭和 4 年に建設されたもので平成 26 年度の開校まで現役で使用されていた。その後も、私立小学校の仮校舎、平成 28 年度の熊本地震の際の救援物資の受入れ場所として利用された。

市内有数の繁華街である天神地区、飲食街などが軒を連ねる大名地区はまさに市内中心部に位置し、ビジネス、ショッピング地区と近接している。

○設置の背景

「目指すは日本のシアトル」というビジョンを掲げた高島福岡市長のリーダーシップの下、福岡市内 3 か所に点在していたインキュベーション施設及び 2014 年 10 月、市内の TSUTAYA 内に設置していたスタートアップカフェを統合して、取り壊しが予定されていた旧大名小学校に設置した。

○運営について

運営者による運営委員会とその下に置かれる運営事務局は各会社から派遣されている職員で構成されている。事務局内には、インキュベーションマネージャー、コミュニティーマネージャー、ブランドマネージャーを配置し、常日頃からのサポート体制を敷いている。

特色として上げられるのは、地場企業代表者 100 社以上で構成されるスタートアップ支援協議会、特区連携機能の付加、孫泰造氏を代表するアクセラレーションプログラム提供者、ロリポップ創業者の家入一真氏をクラウドファンディング・メンターなど、実績ある企業や個人の業務執行体制によって、スタートアップ企業の成長をバックアップしていることである。

また、国家戦略特区としても位置付けられており、福岡市スタートアップカフェ、福岡市雇用労働センター、福岡地域戦略推進協議会などが併設されており、起業面だけでなく様々な問題解決へのサポート機能を有する。

スタートアップカフェは 10 時から 22 時まで営業されており、年末年始以外は年中無休。相談件数は、カフェ開設以前から比較すると 7 倍伸びている。起業相談には、常駐しているコンシェルジュが対応。また、予約制の無料相談にも、行政書士、司法書士、税理士、弁護士、日本政策金融公庫、弁理士などの専門家を有しており支援体制は充実している。

○ビジョン、ミッション、今後について

ビジョン

・「スタートアップ企業」や「中小企業の第二創業」へ支援を行うことを通じて、雇用創出や地域経済の発展に貢献

・独自のスタートアップ支援システムによって、企業が「新たな価値を生み出すこと」「グローバルマーケットへチャレンジすること」を支援。

ミッション

「将来のユニコーン」を生み出す

ユニコーン企業とは、企業価値が10億ドル以上と評価される未上場のベンチャー企業。創業10年以内の企業を指すことが多い。起業が盛んな米国でも、企業価値が高くても創業間もない企業は少ないことから、「うわさは聞くが、だれも見ることがない」という、ギリシャ神話に出てくる伝説の一角獣の名前に例えられた。約2年前から、IT企業が集積する米シリコンバレーで使われ始めた。

(HP コトバンク 朝日新聞掲載「キーワード」より抜粋)

今後について

まだユニコーン企業を輩出していなくて、今後もミッション貫徹に努めていく。

2 考 察

- ・昭和4年に建設された鉄筋コンクリート造りの施設だが、小学校の温かみを残したまま使われている。
- ・入居、退去のサイクルをはっきりしている。
- ・施設内のバーを設置しており、アフターファイブもリラックスしながら、交流を深める機会がつけられるなど、空間の使い方に工夫をこらしていた。
- ・一見、丈夫そうな建物だが、鉄筋補強、空調設置など多額の費用がかかっている。
- ・シェアオフィス・コワーキングスペースなども配置している。事務所の住所として登録することも可能（有料）。
- ・国内有数のスタートアップメディア THE BRIDGE の福岡支局を設置し、日常的に本施設よりニュース、イベントを発信している。
- ・入居企業の営業内容も多岐にわたるものの、成長を遂げそうな企業など、選別されている。

3 視察後の意見

- ・起業に対する市長のビジョン、それを達成させようとするリーダーシップが発揮されたことによって、このような施設を展開させることにつながっている。改めて市長のリーダーシップは市政発展に大きく貢献していることを実感した。
- ・ショッピングエリア、飲食街等に近接していることは、入居企業の出勤意欲につながっているのではないかな。
- ・また、本施設に入居することが、ある種のステイタスになっているのではないかな。そういうブランドを作り上げ、いかに定着させるかが、スタートアップ支援施設にとって大事なことである。
- ・市が管理をしている施設にバーや飲食店を設置するのは難しいが、スタートアップ支援にかける意気込みを感じさせてくれる取組みだと感じられた。
- ・将来的には取り壊しが予想されているとのことだが、手垢がなじんだような木のてすり、多くの子どもたちが利用した廊下や教室といった長年使われてきたことによる雰囲気は、新築物件には出せない。福岡を象徴する建築物としても価値のある本施設は、取り壊さずに使用を続けていただきたい。

平成 30 年 7 月 31 日 (火)

福岡県 福岡市

FUKUOKA growth next 施設視察



新潟県 新潟市議会 平成 30 年 8 月 1 日（水）13 時 30 分 ～ 15 時

○スポ柳都にいがたプランについて

- ・ 取り組みの経緯、・ 概要、・ 今後の課題と方針

1 視察内容

○取り組みの経緯

新潟市における市民のスポーツへの関心の高まり、特にサッカーは 2002 年 FIFA ワールドカップのような世界規模の国際大会の開催、また地元プロサッカーチームであるアルビレックス新潟の J リーグにおける活躍等々、市を挙げてスポーツ普及に取り組む環境が整ってきている。

そのような経緯を背景に平成 17 年度に第一次となる新潟市スポーツ振興計画「スポ柳都にいがた」プランが策定された。

○概要

「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」実現を図るべく、スポーツの「スポ」と、スポーツをする、みる、支える、の「る」と新潟を象徴する「柳都(りゅうと)」の「柳」を「る」にあてて、「スポ柳都にいがた」となる。

また、何も競技スポーツだけではなく、ウォーキング(散歩)やレクリエーション、野外活動も含めた身体的活動全般、スポーツ観戦やボランティア活動も含めた包括的な概念となっている。

○今後の課題

- ・ 東京オリンピック開催を人材育成の好機と捉え、更なる取り組みの強化を図る。
- ・ 老朽化した大規模施設を含むスポーツ施設の改修・整備を図らなければならない

2 考 察

第一次策定の成果の結果・検証を踏まえ、更なる市民意識の向上及び健康増進、市の活性化を図るべく平成 27 年 3 月に「第二次スポ柳都にいがた」が策定された。

また、国の「スポーツ基本法」制定も相まって、市民がいつでも、どこでも、誰とでも、スポーツに親しみ、楽しむために各種施策・取り組みを市民レベルで実践している。

3 議員からの意見

市の基幹政策として「スポーツ振興」に取り組む新潟市。

今回の先進的取り組みの視察を踏まえて、わが沖縄県そして那覇市の基幹産業でもある観光分野とスポーツ振興を結びつけることによって、更なる那覇市の活性化に取り組んでいきたい。

平成 30 年 8 月 1 日（水）
新潟県 新潟市議会
スポ柳都にいがたプランについて

